

1-2. 環境面からみた現況

(1) 海岸の動植物

千葉東沿岸では、浅海と深海、暖流と寒流といった対照的な要素をあわせ持つ多様な環境によって、さまざまな種類の生きものたちが育まれている。



犬伏地の磯
九十九里周辺の海域には、水深の浅い海底が広がり、かつ太平洋の荒波にさらされているため、海底は泥が少なく砂に富んでいることが特徴です。一方、銚子の夏場となる犬伏地では、その沖合で黒潮の流れが東へ向きを変える一方、親潮系の海水がここよりも南下することがほとんどないため、この地は南方系と北方系の海の生きものとの分布を分ける重要な地点だと考えられています。

銚子・九十九里浜の生きもの
九十九里浜沖の太平洋上には、コアホウドリなど大型の海鳥が悠々と飛び回っています。また、沿岸の海底には、ヒラメなど砂底を好む魚が多くみられます。一方、冷たい親潮の影響を受ける銚子では、北方系のマツモやスガモなど、この地が雨限域とされる海藻が姿を現します。

外湾の生きもの
外湾の沖合は黒潮の通り道となっているため、その流れを利用して多くの魚が南の海から北上してきます。餌を求めて回遊するカツオもそのひとつで、夏頃、外湾の沖を北上し、秋には北の海で向きを変え、再び外湾沖を南下します。また、外湾に囲んでいる外湾の沿岸には、広く沖合の表層にすむマンボウが現れることもあります。一方、外湾沿岸域の海底には、イセエビやホウシュウボラなど岩礁域を好む生きものたちが暮らし、水深が深い所では希少種となっているエゾイバラガニ、イバラガニモドキ、アカザエビなどの棲息も確認されています。

勝浦の海底
外湾沿岸は、沖合を流れる黒潮の影響によって温暖な気候となっています。海中には、コンブの仲間である暖かい海にすむカジメが繁り、魚などのよい隠れ場所になっています。また、海岸線に現れる平らな岩礁には、岩のすき間や岩の裏などに、貝類などさまざまな生きものたちが無数に隠れています。これらの生きものたちの多くは日本の温暖域に広く分布している種類ですが、その鎖がれには、黒潮によって南方から運ばれてきたものも含まれます。



出典：「千葉県立中央博物館分館 海の博物館 展示解説書」(千葉県立中央博物館友の会，平成12年3月)

「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料()」(社団法人日本水産資源保護協会，1997年3月)

図 - 1-2-1 千葉東沿岸の生きものの様子

九十九里浜における海浜及び隣接水域の断面図をもとに、ここに生息する生物相の概観を示した下図より、砂浜上部はアカウミガメの産卵場所、砂浜はミユビシギの重要な採餌の場、潮間帯下部のサーフゾーンは特有の生物相をもち、有用種のダンバイキサゴやチョウセンハマグリをはじめとして多くの軟体動物やガザミ、ヒラツメガニなどの大型の甲殻類も多い。



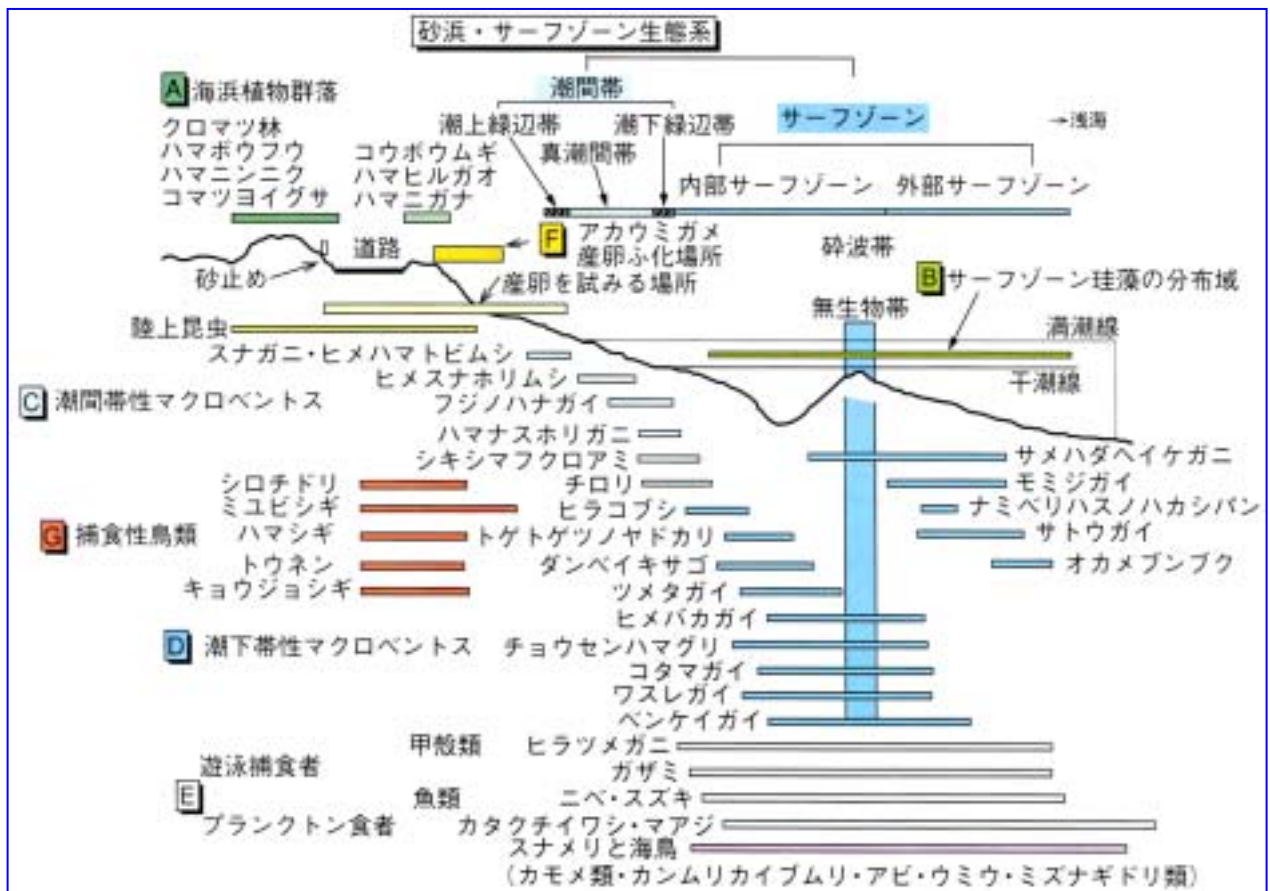
採餌するミユビシギ(一宮海岸)



ダンバイキサゴ(一宮海岸)



チョウセンハマグリ(一宮海岸)



出典：「千葉県の自然誌 本編7」(千葉県, 平成12年)

図 - 1-2-2 九十九里浜における生物分布模式図

植物

千葉東沿岸は熱帯型森林と温帯型森林のちょうど移行域に位置し熱帯と温帯の両要素が共存していることから、環境省が実施している自然環境保全基礎調査（いわゆる緑の国勢調査）のデータより、特定植物群落など多様な植物相が沿岸全域に広く分布している。特に砂浜部ではハマヒルガオなどの海岸景観を代表する植物群落が見られる。



ハマヒルガオ



コウボウムギ

写真提供：光町

千葉東沿岸の保護上重要な海浜植物

オニシバ群落	光町
クロマツ群落	銚子市 岬町
コウボウムギ群落	光町 長生村
ススキ群落	八日市場市 鴨川市
ハマゴウ群落	館山市
ハマニンニク群落	野栄町 大網白里町 九十九里町 長生村 白子町
ハマヒルガオ群落	野栄町
ハマボウフウ群落	館山市

出典：「千葉県レッドデータブック」
(千葉県環境部自然保護課)



出典：「第5回自然環境保全基礎調査」(環境庁, 平成11年)

図 - 1-2-3 海岸付近の特定植物群落

表 - 1-2-1 千葉東沿岸の特定植物群落

市町村	番号	件名	集約群落名	選定基準	記号	相観区分	立地区分	面積
銚子市	1	犬若海岸崖地植生	ハシ ョウス群落	分布限界	C	海浜植生	急崖地、岩壁	2
旭市	2	八日市場のハマヤシ群落	砂丘植生	希な群落	B	海浜植生	砂浜、礫浜	1
八日市場市 野栄町 光町 横芝町 蓮沼村	3	九十九里浜北部の砂丘群落	砂丘植生	特殊立地	D	海浜植生	砂浜、礫浜	10
	4	九十九里浜の中央北部の砂丘群落	砂丘植生	特殊立地	D	海浜植生	砂浜、礫浜	75
九十九里町	5	九十九里地区の植生・ハマヤシ群生地	砂丘植生	分布限界	C	個体群	砂浜	0.01
	6	九十九里町のハマニク群落	砂丘植生	貴重な個体群	H	海浜植生	砂浜	6
長生村	7	一宮川河口の塩湿地群落	ミクス(低層湿原・塩沼地植生セイヨシを含む)	特殊立地	D	湿地植生	河口	17.5
	8	長生村一松の砂丘群落	砂丘植生	特殊立地	D	海浜植生	砂浜、礫浜	20
一宮町	9	一宮権現森	シ・加萌芽林	郷土景観	E	暖温帯常緑広葉低木林	海岸付近	0.1
勝浦市	10	勝浦八坂神社の森	クマ群落 カガ群落 シ・加萌芽林	希な群落	E	暖温帯植生	海岸付近	3
	11	部原の海岸林	カガ群落	特殊立地	D	暖温帯常緑広葉低木林	海岸付近	0.5

出典：「第5回自然環境保全基礎調査」(環境庁，平成11年)

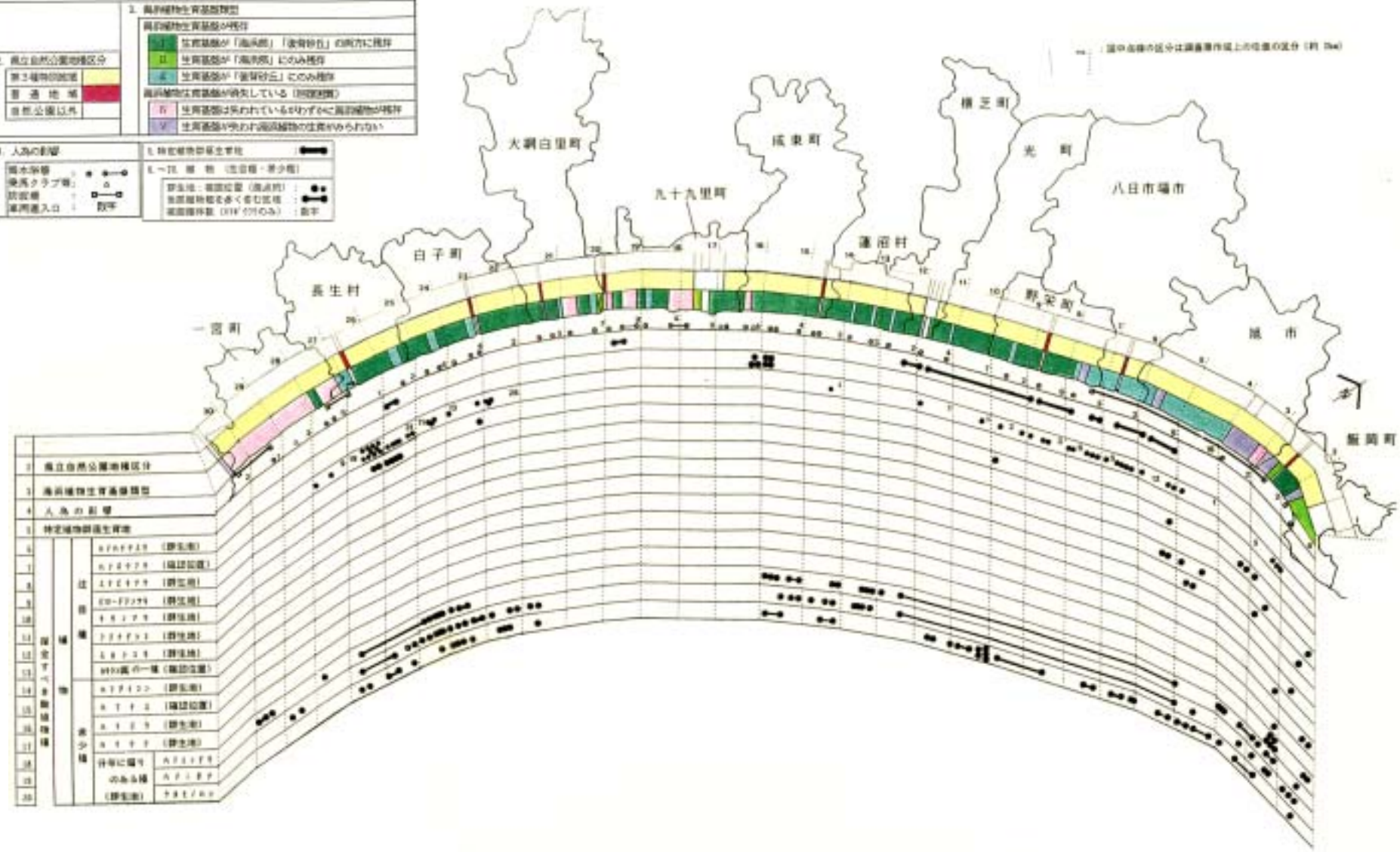
特定植物群落選定基準

記号	理由
A	原生林もしくはそれに近い自然林
B	国内若干地域に分布するが、極めて希な植物群落または個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
D	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が古典的なもの
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群

凡例	
2. 海浜植物生育基盤類型	
海浜植物生育基盤の種別	
Ⅰ	生育基盤が「海浜部」「遊歩帯」の両方に種別
Ⅱ	生育基盤が「海浜部」にのみ種別
Ⅲ	生育基盤が「遊歩帯」にのみ種別
海浜植物は生育基盤が消失している（埋没状態）	
Ⅳ	生育基盤は残されているがわずかに海浜植物が種別
Ⅴ	生育基盤が失われ海浜植物の生育がられない
4. 人為的影響	
海水浴場	●
乗馬クラブ等	○
防波堤	□
崖崩れ入り	数字
5. 特定植物群生帯	
1-70	種別（生育帯・帯少種）
●	野生地：確認位置（確認的）
○	埋没植物群を多く含む区域
■	埋没植物群（10%以下のみ）

注：海中区画の区分は調査時点での位置の区分（約 20m）

1-19



千葉県調査結果

図 - 1-2-4 九十九里海岸における海浜植物の分布

表 - 1-2-2 海浜植生のある海岸

海岸名		市町村	所管	現存海浜植生
九十九里海岸	飯岡海岸 下永井地区	飯岡町	河川局	ハマヒルガオ
	飯岡海岸 横根地区	飯岡町	河川局	ハマヒルガオ
	九十九里海岸 北九十九里地区(北九十九里)	旭市	河川局	ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ハマボウフウ
	九十九里海岸 北九十九里地区(吉崎)	八日市場市	河川局	ハマボウフウ
	九十九里海岸 北九十九里地区(野手)	野栄町	河川局	ハマヒルガオ
	九十九里海岸 北九十九里地区(木戸)	光町	河川局	・コムボウムギの群落 ・ハマヒルガオの群落
	九十九里海岸 北九十九里地区(蓮沼)	蓮沼村	河川局	ハマヒルガオ・ハマニンニク等
	九十九里海岸 北九十九里地区(本須賀)	成東町	河川局	ハマヒルガオの群落地
片貝漁港海岸		九十九里町	水産庁	ハマナシの群生地
九十九里海岸	九十九里海岸 南九十九里二号地区(片貝)	九十九里町	河川局	ハマナシの群生地
	九十九里海岸 南九十九里二号地区(白里)	大網白里町	河川局	ハマヒルガオ、ハマニンニク、ハマエンドウ、コムボウシバ等
	九十九里海岸 南九十九里一号地区(白子)	白子町	河川局	ハマヒルガオ
	九十九里海岸 南九十九里一号地区(-松)	長生村	河川局	ハマヒルガオ、ハマボウフウ、ハマダイコン、ハマエンドウ
太東海岸 太東地区		岬町	河川局	太東海浜植物群落地(スカシユリ、ハマヒルガオ、ハマボウフウ等)
和泉、日在浦海岸	和泉海岸 和泉浦地区	岬町	河川局	
白浜西部漁港海岸		白浜町	水産庁	ハマユウ
平砂浦海岸	一般公共海岸 (平砂浦海岸 平砂浦地区)	館山市	千葉県 (河川局)	・コムボウムギ、ハマニンニク、ハマイチョウ、ハマヒルガオ、ハマボウフウ、イワダレソウなどの群落 ・風衝草原の中に、ハマオモトが自生する。平砂浦はハマオモト自生の北限である
伊戸漁港海岸		館山市	千葉県	ハマボウフウ
洲崎漁港海岸		館山市	水産庁	ハイネズ、スナビキソウ、ハマボウフウが生育している可能性がある

資料：市町村ヒアリング結果（平成14年12月）

動物

九十九里浜や外房の砂浜海岸はアカウミガメの産卵地としてほぼ北限にあたり、これらの上陸・産卵が記録されている。

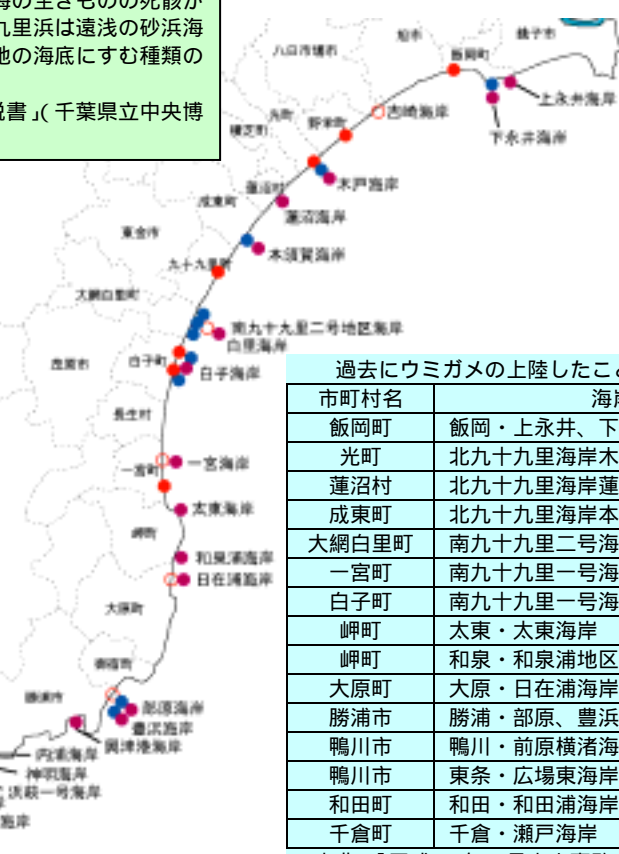
九十九里の砂浜海岸では、コアジサシやシロチドリといった鳥類の営巣地が点在している。

千葉東沿岸の海岸近くに生息している生物は、環境庁が選定した指標昆虫類が3種類（タガメ、ハルゼミ、ゲンジボタル）、特定昆虫類が7種類（オオキンカメムシ、ハマオモトヨトウ、モンシロモドキ、シロヘリハンショウ、ハチジョウウスアヤカミキリ、スイバトビハムシ、モンキジガバチ〔台湾亜種〕）が確認されている。

【アカウミガメ】
 夏の九十九里浜には、メスのアカウミガメが産卵のためにやってきます。アカウミガメは夜間に砂浜へ上陸し、穴を掘ってその中に産卵します。卵は約2ヶ月でふ化し、子ガメは海に戻っていきます。
 また、九十九里浜の波打ち際を歩くと、さまざまな海の生きものの死骸が打ち上げられているのを見ることができます。九十九里浜は遠浅の砂浜海岸であるため、打ち上げられた死骸の多くは浅い砂地の海底にすむ種類のものです。
 (「千葉県立中央博物館分館 海の博物館 展示解説書」(千葉県立中央博物館友の会, 平成12年3月)) より抜粋

産卵上陸したウミガメ数		
平成13年1月～12月		
場所	尾数	備考
飯岡町	3	下永井3
光町	5	木戸5
成東町	不明	井之内
白子町	2	中里1、牛込1
勝浦市	9	部原9
平成14年1月～11月		
場所	尾数	備考
勝浦市	5	部原4、豊浜1
鴨川市	3	東条3
大網白里町	6	南今泉1、北今泉3、四天木2

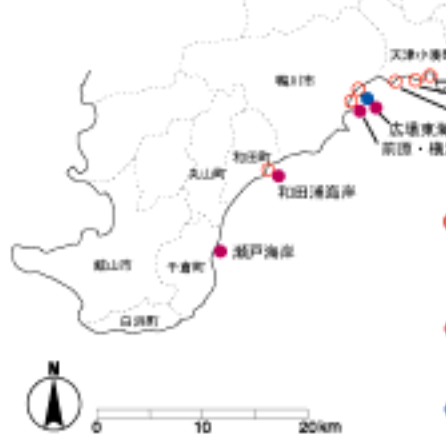
出典：「千葉県農林水産部水産課資料」



過去にウミガメの上陸したことが判明した海岸

市町村名	海岸名
飯岡町	飯岡・上永井、下永井海岸
光町	北九十九里海岸木戸地区
蓮沼村	北九十九里海岸蓮沼地区
成東町	北九十九里海岸本須賀地区
大網白里町	南九十九里二号海岸・白里地区
一宮町	南九十九里一号海岸・一宮地区
白子町	南九十九里一号海岸・白子地区
岬町	太東・太東海岸
岬町	和泉・和泉浦地区
大原町	大原・日在浦海岸
勝浦市	勝浦・部原、豊浜海岸、興津港海岸
鴨川市	鴨川・前原横渚海岸
鴨川市	東条・広場東海岸
和田町	和田・和田浦海岸
千倉町	千倉・瀬戸海岸

出典：「平成14年2月土木事務所ヒアリング結果」



- ウミガメの生息・産卵が確認されている海岸
「1999～2000 海岸ハンドブック」(社団法人 全国海岸協会)及び「市町村ヒアリング結果」
- 地点記録のあるウミガメ類の上陸地点(現地調査・聞き取り調査結果)
「千葉県調査結果・飯岡町～一宮町」
- 平成13年1月～平成14年11月の期間にウミガメが産卵上陸した地点
「千葉県農林水産部水産課資料」
- 過去にウミガメが上陸した地点
「土木事務所ヒアリング結果」(平成14年2月実施)

図 - 1-2-5 ウミガメが確認されている海岸の分布



コアシサシ
写真提供：光町



シロチドリ
写真：九十九里町 HP



図 - 1-2-6 鳥類が確認されている海岸の分布

千葉東沿岸の海岸において、スナメリやマッコウクジラといった鯨類の漂着が多く確認されている。



写真 死亡漂着したスナメリ

写真 死亡漂着したマッコウクジラ

(一宮町・一宮海岸：平成 14 年 6 月撮影)

(銚子市・外川漁港海岸：平成 13 年 9 月撮影)

表 - 1-2-3 鯨類の漂着状況 (平成 13 年～平成 14 年 11 月 20 日現在)

年	月日	場所	種類	体長	漂着状況等
平成 13 年	6 月 5 日	旭市	ハナゴンドウ	3.2m	人力により沖へ漂着
	7 月 6 日	銚子市	スナメリ	1.6m	死亡漂着。埋設。
	7 月 19 日	館山市	バンドウイルカ	1.73m	死亡漂着。学術目的に使用
	8 月 7 日	飯岡町	コマッコウクジラ	2.2m	死亡漂着。埋設。
	9 月 12 日	銚子市	マッコウクジラ	15m	死亡漂着。
	12 月 15 日	館山市	コマッコウクジラ(3 頭)	1.89m	2 頭は死亡漂着(学術目的)
				1.64m	生存していた 1 頭は解放
平成 14 年	1 月 19 日	御宿町	スナメリ	1m	死亡漂着。埋設。
	1 月 25 日	銚子市	マッコウクジラ	13m	死亡漂着。
	1 月 30 日	旭市	スナメリ	1.3m	死亡漂着。埋設。
	2 月 7 日	鴨川市	スジイルカ	1.8m	死亡漂着。学術標本として利用
	2 月 25 日	白子町	カズハゴンドウ	2m	死亡漂着。埋設。
	3 月 26 日	館山市	スジイルカ	2.2m	死亡漂着。学術標本として利用
	5 月 7 日	白子町	不明	1.3m	死亡漂着。埋設。
	5 月 8 日	飯岡町	マッコウクジラ	15m	死亡漂着。埋設。
	6 月 14 日	御宿町	マッコウクジラ	不明	死亡漂着。その後潮流で流出。
	6 月 14 日	一宮町	スナメリ	不明	死亡漂着。
	6 月 24 日	大網白里町	カマイルカ	2m	死亡漂着。埋設。
	7 月 10 日	御宿町	ツチクジラ	7.02m	死亡漂着。埋設。
	8 月 12 日	旭市	マッコウクジラ	3.7m	漂着。解放作業中死亡。埋設。
10 月 28 日	館山市	ハナゴンドウ	2.75m	死亡漂着。学術標本として利用	

出典：「平成 14 年水産課および河川海岸課資料」

海域生物生息環境

海洋生物の産卵・育成の空間となる藻場は、九十九里沿岸の犬吠埼周辺、通蓮洞付近および太東崎周辺の岩礁地帯、外房沿岸は岩礁地帯に現存している。

勝浦周辺の水深 5～20m の場所には、成長すると高さ 2m にもなる大型の海藻のカジメの大群落広がっており、生きものの隠れ家や産卵場となっている。

干潟は、水質浄化の作用があり、また、底生生物の生息、渡り鳥の休息場所としても重要な場所であるが、沿岸では一宮川や夷隅川等の流入河川の河口部に現存している。

【一宮川ならびに夷隅川河口干潟】		
生物群	生育・生息域	選定理由
湿原植生	一宮川河口の塩湿地	ヨシ・シオクグ群落、ヨシ・イソヤマテンツキ群落。
シギ・チドリ類	一宮川河口	春秋の渡り期の種数・個体数が比較的多く、ミコビシギでは最小推定個体数の1%以上が記録されている。RDB種のアカアシシギが記録されている。
底生動物	一宮川ならびに夷隅川河口干潟	九十九里浜から外房にかけての唯一に近い干潟であり関東太平洋岸における干潟生物の着底場として重要。主要ベントスとしては、ヒガタスナホリムシ、イソシジミガイ、オオノガイ、ヤマトオサガニ、コメツキガニなど。

出典：「日本の重要湿地 500」(環境省ホームページ)

【夷隅川の河口干潟】
 勝浦の内陸部を水源とする夷隅川は、岬町で太平洋へと注いでおり、その河口域には小さな干潟が現れます。
 千葉県内では、三番瀬や盤洲干潟など、干潟の多くは東京湾に面した内湾にみられますが、夷隅川河口のように、波の荒い太平洋に面した場所にもいくつかの小さな干潟が存在しています。
 夷隅川の河口では、小さな潟湖を縁取るように干潟が形成されています。また、この干潟のまわりには、人の手が加わっていない自然海岸が残されており、湿地や海岸に特有な植物群落をみることができます。
 (「千葉県立中央博物館分館 海の博物館 展示解説書」(千葉県立中央博物館友の会,平成12年3月))より抜粋



出典：「第4回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁,平成7年)

写真：「千葉県立中央博物館分館 海の博物館 展示解説書」(千葉県立中央博物館友の会,平成12年3月)

図 - 1-2-7 干潟・藻場位置図

(2) 海岸の環境
海水浴場の水質

国の「海水浴場水質保全対策要綱」に基づき、県内海水浴場の遊泳期間前に実施した水質調査結果の内、千葉県東沿岸については、沿岸全体で見ると平成11年度の判定「適」の海水浴場が31であったのに対し、平成14年度は36と水質が改善されている。なお、判定が「可」であった全ての海岸について、COD（化学的酸素要求量）の基準値が「適」の基準値2mg/lを下回ったことに起因することから、生活排水、工場廃水等に対する改善に取り組むことが必要である。



出典：「千葉県環境生活部水質保全課資料」

図 - 1-2-8 各海水浴場の水質調査結果

海岸への漂着物、ゴミの不法投棄

台風の後には河川から流出したとみられる流木等が、海岸への漂着物として多くみられる。また、海岸利用者のゴミや家庭のゴミが多く散乱しており、空き缶、ビン・ガラス類、ビニール・ポリエチレン製品、発砲スチロール、プラスチック、釣り用品（餌、釣り糸、釣り針、電気浮きなど）、使用済み花火等、多岐にわたっている。

不法投棄された家庭ゴミ



蓮沼村 蓮沼海岸

廃船となった漁船の不法投棄



一宮町 一宮海岸

条例による取り組み



鴨川市 東条海岸

砂浜への車両乗り入れ状況

千葉東沿岸は、九十九里浜という長い連続した砂浜海岸を有しており、サーフィン等のマリンスポーツが盛んであるが、それに伴う車両の乗り入れが至る所でみられる。

県立九十九里自然公園内の海岸では、車などの無秩序な乗り入れで自然環境が破壊されないよう、平成10年4月1日から車両の乗り入れ規制を実施している。

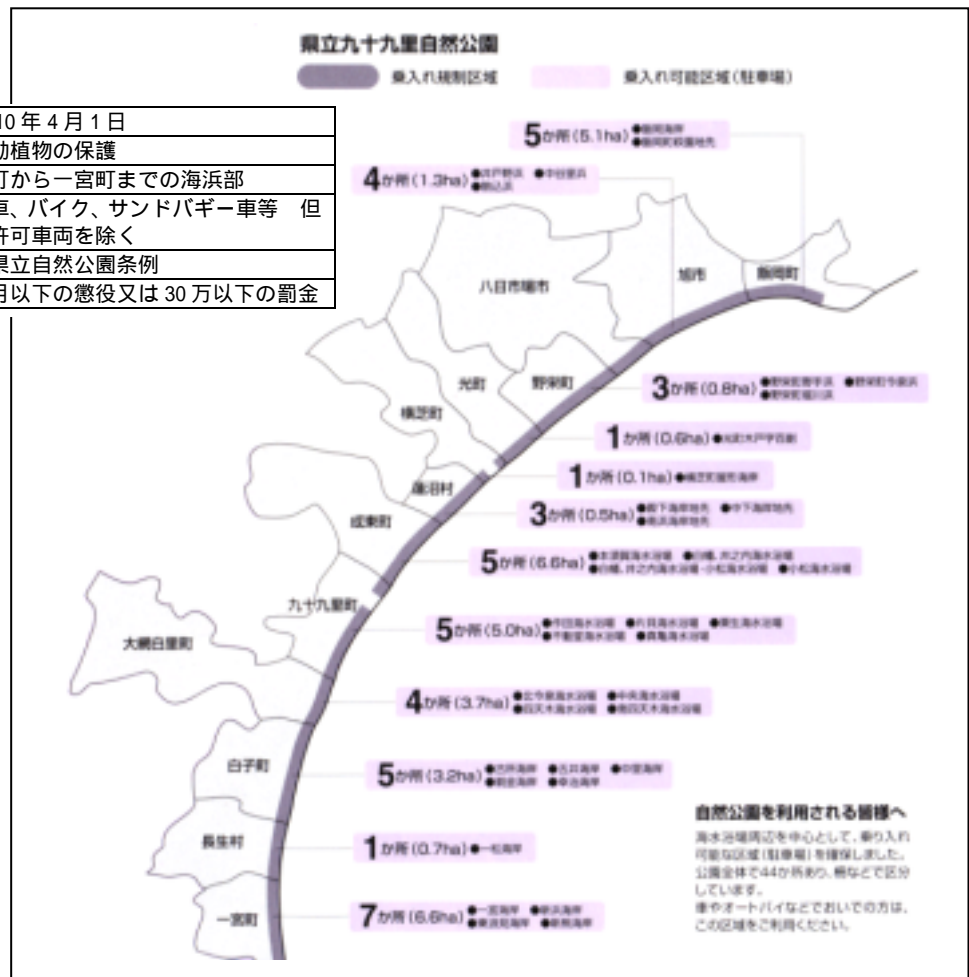


飯岡町 横根海岸



光町 木戸海岸

規制施行日	平成10年4月1日
規制目的	海浜動植物の保護
規制区域	飯岡町から一宮町までの海浜部
規制車両	自動車、バイク、サンドバギー車等 但し、許可車両を除く
規制の根拠	千葉県立自然公園条例
罰則	6か月以下の懲役又は30万以下の罰金



良好な海岸景観

「日本の渚・百選」に選定されている場所が、「犬吠埼君ヶ浜海岸（銚子市）」、「九十九里浜（飯岡町他）」、「鵜原・守谷海岸（勝浦市）」、「前原・横渚海岸（鴨川市）」の4ヶ所、「新日本百景」に「鴨川松島」、「仁右衛門島」の2ヶ所、「白砂青松100選」に「九十九里海岸」、「東条海岸」、「平砂浦海岸」の3ヶ所がそれぞれ選定されている。

その他にも千葉東沿岸には、東洋のドーバーと呼称される「屏風ヶ浦」や環境庁が実施した自然環境保全基礎調査より、犬吠埼を始めとする海食崖、白浜の鐘乳洞等の海食洞、断層海岸のおせんころがし、九十九里浜の砂丘などの自然景観資源が多く点在している。



君ヶ浜海岸（銚子市）

平成 14 年 8 月 30 日撮影



九十九里浜（成東町）

平成 14 年 3 月 12 日撮影



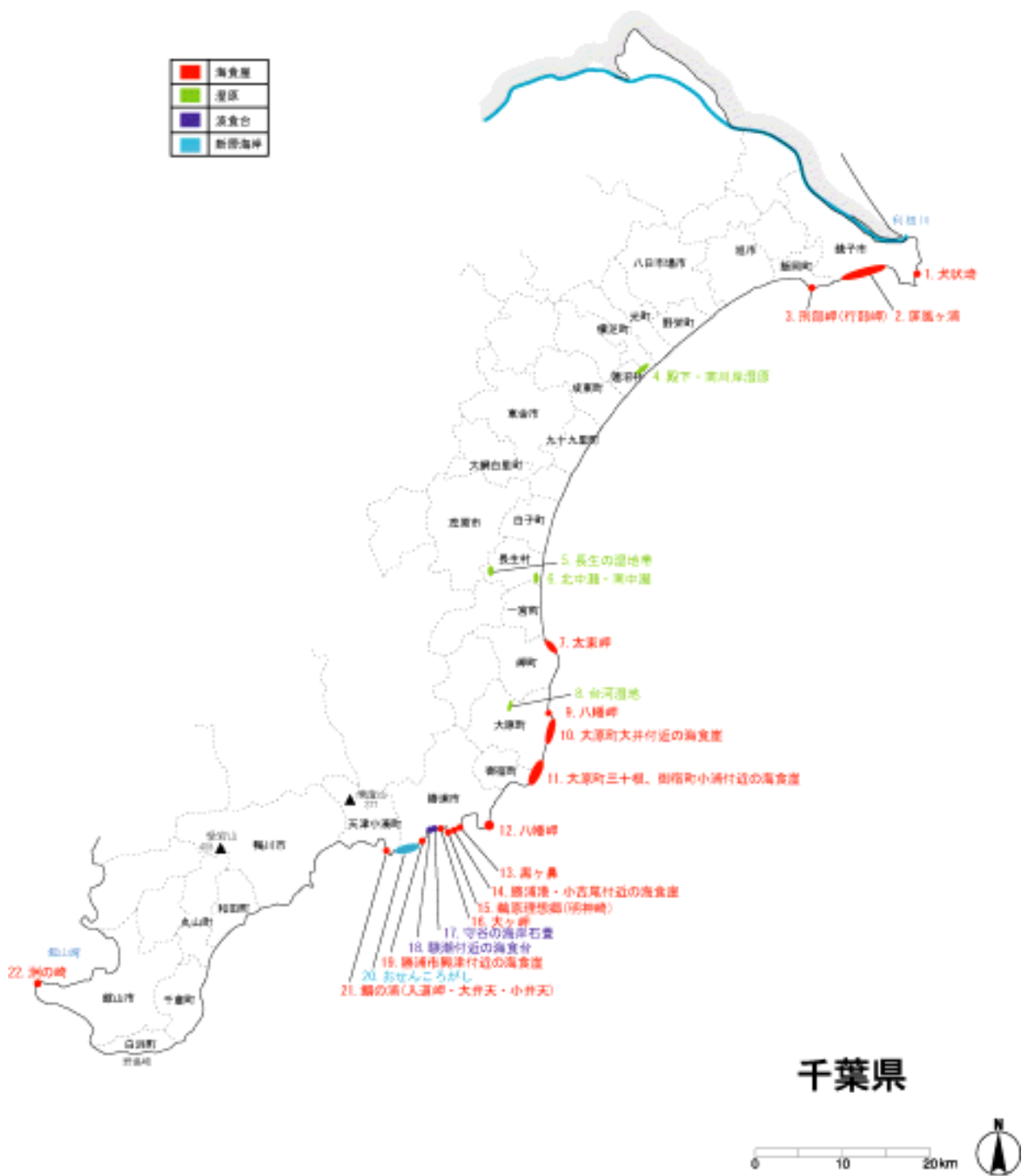
鵜原・守谷海岸（勝浦市）

平成 15 年 1 月 28 日撮影



平砂浦海岸（館山市）

平成 14 年 7 月 5 日撮影



出典：「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁，平成元年)

図 - 1-2-9 自然景観資源

(3) 環境関連の規制区域等

自然公園

千葉東沿岸は銚子半島の水郷筑波国定公園、九十九里浜の県立九十九里自然公園、および外房の海岸線にかけては南房総国定公園にそれぞれ指定されている。



出典：千葉県自然公園管内図（千葉県，平成6年3月）

図 - 1-2-10 自然公園区域

鳥獣保護区

千葉東沿岸における鳥獣保護区等の設定状況は図 - 1-2-11 のとおりである。白子町～天津小湊町, 白浜町～館山市にかけて鳥獣保護区として指定されている。



出典：「平成 14 年度 千葉県鳥獣保護区等位置図」(千葉県環境生活部自然保護課)

図 - 1-2-11 鳥獣保護区域等の位置図

(4) 保安林

千葉東沿岸における保安林の分布状況は図 - 1-2-12 のとおりである。九十九里を始めとして沿岸全域に広く分布している。



「土地利用基本計画図」(千葉県,平成13年)等より作成
 図 - 1-2-12 保安林位置図

森林の整備

千葉県では健全木の育成を図る間伐や松くい虫被害木・不良木等を除去する等の森林の整備に努めている。

また、林内に自然発生した有用な広葉樹、常緑樹を保護・育成し、クロマツを主体とした多様な樹種からなる森林が造成されている。



写真 相対密度 70%程度の林分を相対密度 50%に間伐
(白子町幸治地内)

湿地対策

九十九里海岸平野は、過湿を生じやすい地質構造のうえ、宅地等の土地利用、地盤沈下等に起因して過湿化が進んでおり、樹木の枯損が発生している。

このため、盛土等の過湿対策や、クロマツ、マサキ、トベラ等を植栽して森林の再生が図られている。



写真 植栽工
(白子町八斗・幸治地区)

保安林保全施設

波浪による砂浜侵食が、保安林にまで及んだ場合には、侵食から保安林を守るよう防潮護岸や消波ブロックの設置が行われている。



写真 防潮工
(館山市・平砂浦)

保安林の利用

保安林を県民の野外レクリエーション活動の場として利用するために、林内に遊歩道、ベンチ、東屋等の施設整備が進められている。



写真 本数調整伐施工地
(横芝町屋形・蓮沼村水地区)

魚の繁殖を助ける魚つき保安林

外房沿岸においては変化に富んだポケットビーチがあり、その多くが漁港として利用されているが、この背後には魚の棲息と繁殖を助ける「魚つき保安林」があり、明治末から大正時代にかけて指定されている。

魚つき保安林は「水面に対する森林の蔭影、魚類に対する養分の提供、水質汚濁の防止等の作用により、魚類の棲息と繁殖を助ける。」という働きをしているもので、魚つき保安林を含む森林は、最近では漁業関係者からも「森は海の恋人」等と言われ、その果たす役割が大きく評価されている。

この魚つき保安林は、大原町から御宿町、天津小湊町、勝浦市、鴨川市の海岸沿いに約 124ha 存在し、潮風に強い、ヤブニッケイ、スダジイ、トベラ、ツバキ、タブノキ、ヒサカキ、カクレミノ等の常緑樹に覆われ、海岸の緑豊かな自然を保全している。



写真 魚つき保安林
(勝浦市・鵜原漁港海岸)